

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
福岡医療専門学校	平成11年4月1日	藤瀬 武	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3番1号 (電話) 092-833-6120				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 福岡医療学院	平成11年4月1日	理事長 藤瀬 武	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3番1号 (電話) 092-833-6120				
目的	骨折・脱臼・捻挫等の外傷を処置できる医学知識と専門技術力を持ち、現場ニーズに対して自ら考え対応できる豊かな人間性を兼ね備えた、地域社会に貢献する柔道整復師を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	柔道整復科	平成22年文部科学大臣 告示153号	-			
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2430	1725	69	90	0	615
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
450人	289人	19人	35人	54人			
学期制度	■1学期：4月1日～7月31日 ■2学期：8月1日～12月31日 ■3学期：1月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各科目の成績は100点満点とし、定期試験及びその他の各種資料(定期試験以外の試験、学習態度、出席状況等)に基づいて決定する。原則として60点以上を合格とする。実技実習、臨床実習の成績についても同様とする。			
長期休み	■学年始：4月1日～4月3日 ■夏季：7月30日～8月28日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日		卒業・進級条件	学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 毎学年ごと授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業せしめないものとする。			
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 日々の出席状況をクラス担任が把握し、欠席が続く者には保護者へ連絡し、長期欠席にならないように取り組んでいる。 付属クリニックにおける専門医の相談の場を設けている。		課外活動	■課外活動の種類 ① トレーナー活動 全国高等学校野球選手権福岡大会・全国高等学校総合体育大会・全国選抜高校テニス大会・高校部活動・高校体育祭・九州管区内警察柔道・剣道大会・福岡矯正管区管内矯正職員武道選手権大会・専門学校体育大会等 ② 部活動 女子陸上競技部・バドミントン部・サッカー部・硬式テニス部・ソフトテニス部・バスケットボール部・バレーボール部・野球部・ソフトボール部・剣道部・柔道部・総合運動部・卓球部・少林寺拳法部・軽音楽奏楽部・東洋医学研究部・ヘルス&ビューティ部等 ■サークル活動：有			
	■主な就職先、業界等						

就職等の状況	あみはりきゅう整骨院、池永修子整骨院、伊都整骨院、医療法人 太田脳神経外科医院、医療法人社団 RMC(整形外科・内科)、ういんぐ整骨院、うえの整骨院、うらら整骨院、えびす整骨院、大木町整骨院、岡本整骨院、株式会社 医倅会、株式会社 堺整骨院、株式会社 佐々木整骨院、株式会社 湧命、株式会社 オリエンタルメディスン 田口整骨院、かみはら整骨院、かみみね整骨院、かわしまはりきゅう整骨院、きくち整骨院、きずな整骨院、久留米荻原整骨院、クレアーレはりきゅう整骨院、くろ川整骨院、けやき整骨院、KOBASポーツ鍼灸整骨院、五条いきいき整骨院、後藤鍼灸整骨院、コノハ整骨院片江、坂本接骨院、さくら通り整骨院、佐々木整骨院、塩川整骨院、自在な整骨院・はりきゅう院、下大利整骨院、不知火接骨院、新宮中央整骨院、多賀はりきゅう整骨院、たんぼ鍼灸整骨院、てづか整骨鍼灸院、なお整骨院、仲原彩整骨院、和整骨院、ハイカラ鍼灸整骨院、元鍼灸整骨院、はり灸・整骨院NEX T、ひさつね整骨院、ひまわり整骨院、ピュア整骨院、福岡スポーツ整骨院、福富整骨院、ふるかわ整骨院、フレスポからだ110、別府針灸整骨院、ほっこり整骨院、本多鍼灸整骨院、まきの整骨院、松岡整骨院、松山整骨院、南川鍼灸整骨院、みやざき鍼灸整骨院、みやはら整骨院、むさし整骨院、もみの木整骨院、山川整骨院、やま田鍼灸整骨院、有限会社 甲斐整骨院、祐生堂はり灸マッサージ博多院、よしだ整骨院等 ■就職率^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 89.8 % (平成 27 年度卒業者にに関する平成28年7月1日 時点の情報)	主な資格・検定等	柔道整復師国家試験受験資格												
中途退学の現状	<table border="1"> <tr> <td>■中途退学者</td> <td>35 名</td> <td>■中退率</td> <td>10.1 %</td> </tr> <tr> <td>平成27年4月1日 在学者</td> <td>345 名</td> <td>(平成27年4月1日 入学者を含む)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成28年3月31日 在学者</td> <td>310 名</td> <td>(平成28年3月31日 卒業者を含む)</td> <td></td> </tr> </table> ■中途退学の主な理由 経済的事由 成績不良 ■中退防止のための取組 奨学金や教育ローンの拡充をはかり、経済的困難な学生のサポートに努めている。 入学予定者に対するサポートデスクを立ち上げ、入学までの学力向上を図っている。 複数担任制を導入し補充指導等をおして、きめ細やかなサポートを継続している。			■中途退学者	35 名	■中退率	10.1 %	平成27年4月1日 在学者	345 名	(平成27年4月1日 入学者を含む)		平成28年3月31日 在学者	310 名	(平成28年3月31日 卒業者を含む)	
■中途退学者	35 名	■中退率	10.1 %												
平成27年4月1日 在学者	345 名	(平成27年4月1日 入学者を含む)													
平成28年3月31日 在学者	310 名	(平成28年3月31日 卒業者を含む)													
ホームページ	URL: http://www.jusei.ac.jp/														

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程編成委員には、以下の両方または何れかの条件を満たす者を選定している。

1. 業界団体に所属し、要職に就いている有識者
 2. 現場を指揮し、医療の最先端で活躍している院長や所属の長
- このような業界全体の動向、実務に関する知識や技術に関する知見を有する委員からの要請等を教育課程編成委員会にて協議していく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年7月1日現在

名 前	所 属
藤瀬 武	福岡医療専門学校 校長
藤瀬 敏子	福岡医療専門学校 事務長
田中 七郎	福岡医療専門学校 副校長
藤瀬 正	福岡医療専門学校 副校長
喜多村 伸明	福岡医療専門学校 柔道整復科 学科長
西島 稔了	公益社団法人福岡県柔道整復師会 元会長・西島整骨院 会長
塩川 哲也	公益社団法人福岡県柔道整復師会 副会長・塩川整骨院本城院 院長
満山 悦朗	公益社団法人福岡県柔道整復師会 理事・みつやま整骨院 院長
西島 伴了	西島整骨院 院長
力武 雄一	りきたけ整骨院 院長

(開催日時)

第1回 平成28年 6月11日 15:00～17:00

第2回 平成28年 11月12日 15:00～17:00(予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

日々進歩する医療に対応するため、医療の最前線で活躍している臨床経験が豊富な柔道整復師で、厚生労働大臣の指定した教員講習会を修了した者を講師に選定している。また、校内の実習施設や設備等を活用した指導ができ、校内の実習の実施にあたり、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業を選定している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
柔道整復実技Ⅲ	MMT(徒手筋力検査法)、テーピングの知識、技術の修得をとおして、スポーツ外傷の処置に関する専門的かつ実践的な能力を身につける。	有限会社 長寿堂
柔道整復実技Ⅳ	日常の臨床でよく遭遇する疾患の鑑別診断(業務範囲内・外)、整復法、固定法(厚紙副子・すだれ副子・ギプス・アルフェンスシーネ他)、後療法(手技療法)について、その実技と理論を修得する。	松山整骨院、佐々木整骨院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校は、教員が学生に対し、社会のニーズに応えることのできる即戦力及び臨床能力の高い医療技術者を育てるために、より職業実践的な教育をすることを目的に掲げている。

この目的を達成するためには、教員の資質向上は必須の条件となる。そこで、次に掲げた事項を進めることにより、教員の資質向上の支援を行っている。

1. 研修規程を定めて、計画的かつ継続的な研修受講を支援する。
2. 本校付属臨床施設(福岡医療学院整骨院・福岡医療学院鍼灸院・福岡医療クリニック)での臨床経験を積むことにより、実際の現場での知識・技術の修得をすすめる。
3. 外部機関(学会・研究会・研修等)に対して会場提供を積極的に行い、様々な分野での知識修得を奨励する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年7月1日現在

名 前	所 属
北原 孝子	朝日ホーム有限会社 顧問
下迫 勇夫	福岡市立福岡西陵高等学校 元校長
上野 啓介	うえの整骨院 院長 6期卒業生
牛尾 健介	はり灸整骨院地球の唄 院長
木下 健一郎	有限会社ひかり 代表取締役
松山 基光	松山整骨院 院長

山中 知愛	医療法人西福岡病院 放射線科 科長
池田 悦子	医療法人社団正樹会 佐田整形外科病院 副院長

(学校関係者評価結果の公表方法)

[URL:http://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html](http://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

[URL:http://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html](http://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html)

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復科昼間部) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	人間の行動分析等に関する知見を学び、それらのメカニズムについての学習をとおして、科学的、論理的思考力を養い、人間性を高め、専門分野の知識や主体的学習能力を修得する。	1 ①	30	2	○			○		○		
○			表現法Ⅰ	社会通念上必要な敬語、接遇などの学習をとおして、医療人として対象者に対する適切な接遇能力を修得する。	1 通	30	2	○			○			○	
○			表現法Ⅱ	表現法Ⅰで修得した接遇を更に深化させるとともに、医接連携をとるための文章表現力（紹介書、論文等）を修得する。	2 通	30	2	○			○			○	
○			社会学	日本および世界の文化、歴史、宗教、社会の構造、制度と変動について学び、社会人としての素養を身につける。	1 ①	30	2	○			○			○	
○			生物	からだの化学的構成をとおして、科学的・理論的思考力を養い、人体の機能を系統立てて理解する能力を修得する。	1 ① ② ③	30	2	○			○			○	
○			外国語	医療に関する英語を学習することをおして、国際化及び情報化社会に対応できる能力を修得する。	1 通 2 通	60	4	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	主として、概説、骨格、筋、脈管、体表解剖の学習をとおして、人体の構造と機能および心身の発達を系統立てて理解する能力を修得する。	1 ① ② ③ ①	90	3	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	主として、細胞、組織、内分泌、内臓、神経、感覚器、映像解剖の学習をとおして、人体の構造と機能および心身の発達を系統立てて理解できる能力を修得する。	1 通 3 ② ③	90	3	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	主として、基礎、血液、循環、呼吸、消化吸収、栄養代謝、体温、尿、生殖の学習をとおして、身体に起こる化学的変化を生理学として捉え、理解する能力を修得する。	1 ① ② ③ ①	90	3	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	主として、内分泌、骨、体液、筋肉、神経、感覚の学習をとおして、身体に起こる化学的変化を生理学として捉え、理解する能力を修得する。	1 通 3 ② ③	90	3	○			○			○	
○			運動学	人間の身体運動を医科学的に分析研究した知見に基づき、人体の構造や機能を再確認しつつ、正常運動の様態及び運動障害等について習得する。	1 ② ③	45	1	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			病理学概論	病理学は疾患像を把握するために最も重要な科目であり、疾病における臓器、組織、細胞の形態変化の理解を深めることをとおして、各疾患像を把握する能力を修得する。	2 ① ②	60	2	○			○			○	
○			一般臨床医学Ⅰ	自己免疫疾患、呼吸器疾患、循環器疾患などの内科疾患を中心とした疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後を把握し、疾患を鑑別できる能力を修得する。	2 ① ②	60	2	○			○			○	
○			一般臨床医学Ⅱ	柔道整復師として、外傷やその他の疾患を鑑別する上で基本となる病歴を聴取する医療面接、診察法、検査法、治療法、臓器別の症状などを習得する。	2 ③	30	1	○			○			○	
○			外科学概論	外科学概論の本質を掘り下げ、外傷を専門とする柔道整復師に必要な外科学の基本的知識の習得、日常の臨床の場で必要となる外科疾患の症状、診断法を修得する。	2 ① ②	60	2	○			○			○	
○			整形外科学	主として、各運動器の外傷の診察法、検査法、治療法についての学習をとおして、臨床上必要となる運動器疾患全般についての基礎的な知識を習得する。	2 通	90	3	○			○			○	
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションの適応疾患について概略を知り、評価、治療の指針についての基礎知識を学ぶことをとおして、リハビリテーションの臨床に関わる柔道整復師に必要な医学の知識、技術に対する理解を習得する。	2 ① ②	60	2	○			○			○	
○			医学史	「医療とは何か」という問いを歴史と文化の軸にそって考え、西洋医学と東洋医学の提示する論理について考察し、歴史観、倫理観、論理的思考能力を身につける。	1 ①	30	1	○			○			○	
○			衛生学・公衆衛生学	柔道整復師が地域医療に貢献するために、健康の保持・増進の普及活動に必要な知識、予防医学の理念を身につける。	1 ① ②	60	2	○			○			○	
○			関係法規	柔道整復師法、医療従事者の資格法、医療法等を学び、それぞれの業種の業務内容を把握と禁止事項を把握することをとおして、法令順守などの倫理観を修得する。	1 ② ③	30	1	○			○			○	
○			柔道Ⅰ	服装・態度、礼法、基本受身(座・中腰・立)、基本技(大外刈・大腰・背負投・出足払・送足払)など柔道整復術のバックボーンである柔道を学ぶことにより健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。	1 通 2 ③	90	2			○	○			○	
○			柔道Ⅱ	服装・態度、礼法、浮落、肩車、浮腰、払腰、釣込腰、送足払、支釣込足、内股などを学ぶことをとおして、柔道Ⅰの内容を深化し、柔道整復師として対象者との関わり方を修得する。	3 ① ②	45	1			○	○			○	
○			柔道整復総論Ⅰ	主に骨、関節の損傷についての学習をとおして、柔道整復術の業務範囲(骨折、脱臼、捻挫、筋腱軟部組織)の概説、概論と各運動器疾患に働く外力、人体の基礎的状態が損傷に及ぼす影響などについて習得する。また、衛生学、病理学の知識を統合して活用する力を身につける。	1 ① ② 3 通	90	3	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道整復総論Ⅱ	筋、腱、末梢神経、血管系、リンパ系、皮膚の損傷について学ぶとともに、評価から治療法(整復法、固定法、後療法)について習得する。また、関係法規、リハビリテーション医学の知識を統合して活用する力を身につける。	1 ② ③ 3通	90	3	○			○		○	○	
○			柔道整復総論Ⅲ	柔道整復総論ⅠⅡの知識と各外傷の特徴などを学習し、それぞれの各外傷の評価、治療法(整復法、固定法、後療法)の理論を理解し、応用力を身につける。	3通	90	3	○			○		○		
○			柔道整復各論Ⅰ	上肢骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶことをとおして、柔道整復師が日常の臨床で遭遇する外傷(骨折、脱臼、捻挫、筋腱軟部組織損傷)について各部位の解剖、発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断について習得する。	2 ① ②	60	2	○			○		○	○	
○			柔道整復各論Ⅱ	下肢骨折・脱臼・軟部組織損傷について学ぶことをとおして、柔道整復師が日常の臨床で遭遇する外傷(骨折、脱臼、捻挫、筋腱軟部組織損傷)について各部位の解剖、発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断について習得する。	2通	60	2	○			○		○	○	
○			柔道整復各論Ⅲ	頭部、顔面、胸部、脊椎について学ぶことをとおして、柔道整復師が日常の臨床で遭遇する外傷(骨折、脱臼、捻挫、筋腱軟部組織損傷)について各部位の解剖、発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断について習得する。また、整形外科の知識を統合して活用する力を身につける。	2通 3通	60	2	○			○			○	
○			柔道整復各論Ⅳ	身体の構造や機能、姿勢や歩行といった身体運動について学ぶことをとおして、柔道整復師が日常の臨床で遭遇する外傷(骨折、脱臼、捻挫、筋腱軟部組織損傷)について各部位の解剖、発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断について習得する。	3通	60	2	○			○		○		
○			柔道整復各論Ⅴ	内科系疾患の診察法を学ぶことにより、日常の臨床で遭遇するであろう柔道整復師の業務範囲以外の疾患と鑑別する力を身につける。	3通	60	2	○			○		○		
○			柔道整復各論Ⅵ	外科系疾患の診察法を学ぶことにより、日常の臨床で遭遇するであろう柔道整復師の業務範囲以外の疾患と鑑別する力を身につける。	3通	60	2	○			○		○		
○			柔道整復各論Ⅶ	柔道整復各論Ⅰ～Ⅵで習得した知識をさらに深め、具体的な事例を含めた各外傷について学ぶことをとおして、総合的な思考力や適切な判断力を身につける。	3 ② ③	60	2	○			○		○		
○			柔道整復実技Ⅰ	包帯法(基本・冠名・部位別)、他の方法を使用した固定法(三角巾)、評価法(身体測定法)を行うことをとおして、種々の固定法や評価法を修得する。	1通	60	2	△			○	○		○	
○			柔道整復実技Ⅱ	触診(骨・筋)と後療法(手技・運動療法)の実技をとおして、損傷を推測する技能・態度等を修得する。また、上肢骨折・脱臼・軟部組織損傷に対する検査法や処置法を身につける。	1通	60	2	△			○	○		○	
○			柔道整復実技Ⅲ	MMT(徒手筋力検査法)、テーピングの知識、技術の修得をとおして、スポーツ外傷の処置に関する専門的かつ実践的な能力を身につける。	2 ① ②	60	2	△			○	○		○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道整復実技Ⅳ	日常の臨床でよく遭遇する疾患の鑑別診断（業務範囲内・外）、整復法、固定法（厚紙副子・すだれ副子・ギブス・アルフェンスシーネ他）、後療法（手技療法）について、その実技と理論を修得する。	2 ① ②	60	2	△		○	○			○	○
○			柔道整復実技Ⅴ	骨折、脱臼の診察及び整復法、軟部組織損傷の診察及び検査法についての知識、技術を修得するとともに、他の外傷との鑑別能力を身につける。	2 通	60	2	△		○	○		○		
○			柔道整復実技Ⅵ	上肢骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序や症状、その特徴などを学ぶことにより、日常の臨床で遭遇するであろう類似疾患と鑑別する能力を修得する。	3 ① ②	60	2	△		○	○		○		
○			柔道整復実技Ⅶ	骨折3症例、脱臼3症例の診察及び整復法と固定法、軟部組織損傷9症例の診察及び検査法、基本包帯法・冠名包帯法についての知識、技術の修得をとおして、専門的かつ実践的な能力を身につける。	3 ① ②	60	2	△		○	○		○		
○			臨床実習Ⅰ	実際の施術所の見学実習にあたり、事前指導（整容、接遇、機器取扱、検査法）をとおして自己の資格をより具体的に意識できるよう、実習施設見学や医療面接の実際を見学する。	1 ③ 2 ③	45	1	△		○	○		○		
○			臨床実習Ⅱ	実際の臨床と同様に、「医療面接から始まり、検査等をおこない疾患を特定する」ロールプレイ、シミュレーションを行い、実践力を身につける。	3 ① ②	45	1	△		○	○		○		
		○	解剖基礎	解剖ⅠⅡで学んだ知識を確実に身につけるための課題や問題演習をとおして、知識の定着を図る。	1 ① ②	45			○		○		○		
		○	進級学力演習	各学年で行った専門科目の総まとめをする。多様な視点から作成した課題から知識の融合を図る。	1 ③ 2 ③	24			○		○		○		
合計			4 1 科目			2 4 3 0 単位時間 (8 5 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学年末・各学期末に行う試験・実習の成果・履修状況等を総合的に勘案し行う。 出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 毎学年ごと授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業せしめないとする。		1 学年の学期区分	3 期
		1 学期の授業期間	1 3 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。